
[[敬愛SDGsプロジェクト]プロジェクト・ノート]

2年次専門導入演習を中心とした SDGsの取り組み

敬愛大学経済学部教授

飯野 由美子

1 試行の全体像

1.1 背景

SDGsは、2020年経済において最も際立ったキーワードの1つとなった。世界経済に対し新型コロナウイルス感染症（Covid-19）という非常に大きいインパクト要因が加わり、そこから出てきた方向性が、①DX、そして②SDGsだった。SDGsの方向性としては、(1)ゼロエミッションに向けたグリーンリカバリー、(2)社会問題の解決が、単に理念的・科学的テーマとしてだけでなく、むしろ次世代経済システムへのパラダイムシフトのキーになること、それを通じてビジネスチャンスとして浮かび上がったことが大きい。

1.2 目的

そこで、本プロジェクトに経済学部から参加した者として、経済学部全体で、学生の①SDGsの認識を高め、なぜビジネスがそれを求め始めたのかの構造だけでも語れるようにする必要があると考えた。さらに、このSDGsをテーマとして、オンライン授業下、互いに地理的・時間的に切り離された状態で、まとまったグループワークを仕上げる技術的ノウハウ、それを通じて「②有機的に共同作業を行い疑問を浮かび上がらせそれを解く、さらにその個々の答えからまとまった像を構築する」という経験を在学中に得ることを目的とした。

1.3 実施科目

①「SDGsの認識を高める」タイプ：講義科目3と演習2

1. 「金融事情」
2. 「ヨーロッパ経済論」
3. 「国際地域論」
4. 「基礎演習」
5. 「専門演習」

②「有機的に共同作業」タイプ：2年次専門導入演習

1.4 結果

実際にプロジェクトを後期を中心に行った結果、SDGsの授業を受けた学生の大半はSDGsという概念を初めて知った。さらに、理念的標語と受け取られがちなSDGsが企業利益と矛盾しない・次世代経済へのキーワードとなることは掴んだようだ。

一方、共同作業による達成経験という面では課題を残している。

以下、①SDGsの認識を高める実施内容を記し、②共同作業の課題、分析、次年度計画の修正を叙述し、報告とする。

2 2年次専門導入演習でのプラン

2.1 年間スケジュールと他企画とのシナジー

前述（1節【目的】②）のように、ここで2つの目的を設定した。

第1に、SDGs研究をグループで行うことにより、共に疑問を浮かび上げらせそれを解く、さらにその個々の答からまとまった像を構築するという有機的協働経験を在学中に得ることは、非常に貴重である。これを経験していれば、卒業後もプロジェクトに積極的に向かっていけるだろう。一度脳が覚えたルートは、二度目はより易々と辿れる。

第2に、オンライン授業下、互いに地理的・時間的に切り離された状態で、まとまったグループワークを仕上げる技術的ノウハウを教えようとした。

第3に、グループワークで得た気づきや知見を文章で論理的に表現できるようにすることも目的である。

これらを具体化する際に、経済学科が毎年行っている2つの2年ゼミ向けプロジェクトに組み込むことが有効であった。第1に、毎年前期に行っている「フィールドワーク入門」である。第2に、毎年後期に行っている「小論文コンテスト」である。

以下、2.2では、このうち「フィールドワーク入門」の概要と、SDGs研究への接合について、2.3では、「小論文コンテスト」との結び付けについて説明する。

2.2 経済学科フィールドワーク入門

【「フィールドワーク入門」の概要】

「フィールドワーク入門」では、前半は全体講義、後半はゼミ別活動で構成され、全体講義では、フィールドワークとは何か、から、調査方法入門、千葉市役所による講演等、基本技能を学習していく。後半のゼミ別活動では、前半に得た知識を基に、ゼミごとにテーマを決め、アンケートを実施、その分析を織り交ぜて、ゼミ全体の結論をまとめ、「敬愛祭」でパネル展示の形で発表する。

【2020年度の実践】

2020年度は、文字通りのフィールドワークはCovid-19感染を避けるため行えなかった。しかし、前半の概論レクチャーは千葉市役所による講演以外は例年通り行い、後半のゼミ別活動では、それぞれテーマを設け、フィールドワーク無しのグループワークを行った。

【飯野ゼミでのテーマ設定】

本来テーマは学生のディスカッションによって例年決めているが、今回はこちらで理由説明を詳しくした上で、学生の合意を得てSDGsに設定した。この時点で、学生のイニシアティブによるテーマ設定でなかった点、課題を残した可能性もある。

理由として説明した第1は、1節【背景】で述べたように、現在目前で起こっている経済面でのパラダイムシフトの中で中心的な位置を占めているキーワードであること→日々新聞を読む際などにも、毎日新しい展開が報道されているテーマなだけに、常に気に掛けていて欲しいこと、第2に、学生にとっては、現実、就職活動において知らない／洞察を持たないと困る概念であること¹⁾、第3に、「事実関係を知るだけ」の思考の発展性が無

いテーマとは違い、自分自身の考えや思想と結びつけやすいことに面白みがあるテーマであること、第4に、フィールドワーク入門でも小論文コンテストでも共通して扱えるテーマであることを説明した。

【講師側の段取り設定】

SDGsの概念は非常に幅広い。それらのターゲットと「ESG投資」におけるESGの概念との共通点、視点の違いを感じてもらうこと、そして直近の重要なキーワードとなっている事柄が、SDGs、ESGの尺度の中でどう位置付くかを認識するため、以下のような主としてESGを横軸とし行動主体を縦軸とした概念図を作成した。使用ツールとして、1) Jamboard²⁾ (図1参照)、2) diagrams.net (旧draw.io) (図2参照) を利用した。図の内容はほぼ同じである。

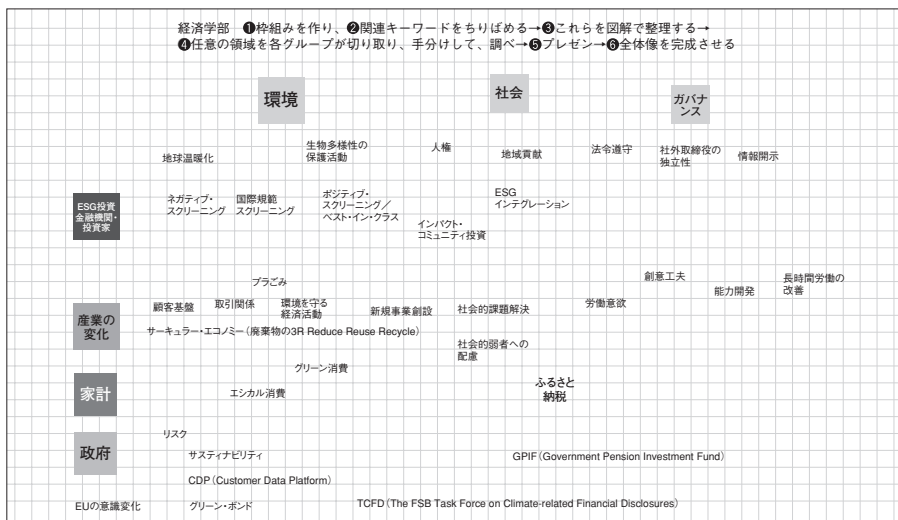


図1 JamboardによるSDGs、ESG概念図

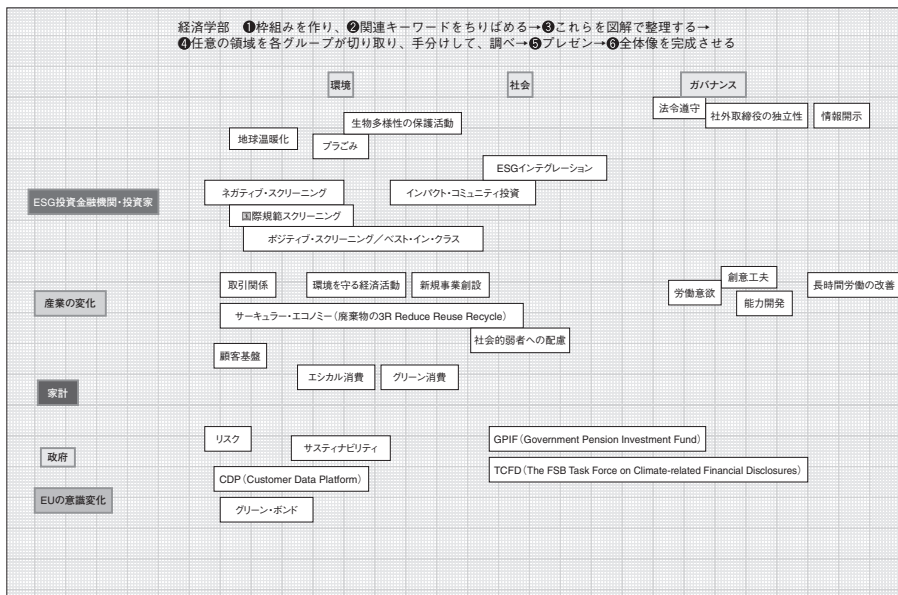


図2 diagrams.net (draw.io) によるSDGs、ESG概念図

【段取り】

これらを使った作業の段取りとして、以下のような流れを想定した。

① 枠組みを作る

SDGsの17の目標と、ESGの「環境」「社会」「ガバナンス」の要素を比較し、現在経済界が重視しているこれら3つの要素をSDGsの中に位置付ける（これらは図解の中に落とし込んでいないが、作業の途上で具体的に明らかにできると考えた……実際にはできなかった）。

3つの要素の軸を横軸に、それらを実践する主体（金融機関・投資家、産業の変化、家計、政府）を縦軸にした。

これらの図解の大きな利点は、各自宅に散らばる学生達が、ゼミ全体であれ、グループごとであれ、第1に、Zoomミーティングの間に1つの図解を共有し、それぞれが権限を持って図解に書き込み・修正を行っていくことができる点、第2に、共同の図解にリアルタイム・同時に書き込み・修正を行わなくても、時間的にずれた共同作業ができる点である。

離れた地点で、それぞれのスケジュールを最大限尊重し、しかも、同じ机上で一緒に図解を作成しているかのごとく、共同作業ができる。もっとも、このような共同作業は、上記の2つの図解ツールだけではなく、他にオンライン共同作業に向けた図解ツール、プレゼンツールは多々ある（が、機能的に充実したものはコストがかかることが多い。種々トライアルで試してみた結果、上記と後述のcoggleが優れていると判断した）。GoogleスライドなどGoogleSuiteに含まれる他のツールでも同じことができる。

今後、仮に対面授業になったとしても、授業に上記のようなオンラインツールを利用していくことは、学生の学業面での生産性を高め、卒業後のプロジェクトに利用できる様々な無料の手段を覚えさせる意味でも有効であると考ええる。

② 関連キーワードをちりばめる

枠組みの中に、より具体的な経済行動・社会的実践・概念などを位置付けていく。これらは、学生が、SDGs、ESGの解説書、web情報、新聞などから拾えばよいとする。予め当方でちりばめたのは、単なる例としてである。

③ これらを図解で整理する

例えば、「エシカル消費」は、横軸では「環境」の部分に、縦軸では「家計」に最も近いが、第2に影響が大きいのは「産業」（無論、政府も投資家も関係はするだろうがより直接的ではない）であるため、家計の企業寄りの部分に配置した。

④ 任意の領域を各グループが切り取り、手分けして、調べる

これら全体を1グループが全て調べるのは困難であるため、ゼミ全体のディスカッションと各個人の興味のある方に従い、同じような興味を持つ者同士がグループを作り、グループごとに図解の全体像を意識しつつ（全体の中で自分たちが何をやっているか常に意識しつつ）、担当部分の意味付けや背景、影響、事例、国際比較などの点にわたって情報を自ら探し、グループワークとして完成させていく。

⑤ プレゼン

プレゼンは、各グループの小プレゼンと⑥の結果完成するゼミ全体の研究を総合した大プレゼンに分けられる。以下は、どちらにも利用することができる。

当初、PowerPointないしGoogleスライドでプレゼンを作成し、それにオンラインで説明を加えていってもらい、そしてそれをZoomの録画機能を使って録画する、あるいは、作

成したPowerPointにアフレコを入れて→mp4ないしmovで出力し→YouTubeにアップする→YouTubeのurlをmoodle上に提示し、それを視聴して、moodleのフィードバックモジュールを使い相互評価する、というのを課題にする方法もある。

⑥ 全体像を完成させる

各グループの成果を、ゼミ全体で何が導き出せるのか、それぞれの研究対象同士の関連性、相互の影響についてディスカッションする→そこで導き出された関連性を糊にして全体像を繋ぎ合わせ、ゼミ全体の研究成果とする。

計画は以上の通りだったが、現実を実施してみると、課題があることがわかった。

2.3 経済学科小論文コンテスト

【「小論文コンテスト」の概要】

「小論文コンテスト」は、いつも経済学科で後期に行っているものであり、2つの小論文課題テーマから1つを選び、各学生が書いたものの中からゼミ代表を選んで、コンテストにエントリーする、そして、経済学科の小論文コンテスト担当の教員が、最優秀賞を選ぶ→表彰、という流れになる。

目的は、卒論の助走として、論文の展開や文体に慣れておく、というものである。教材として、小山幸伸教授の作成した『小論文・論文・レポートの書き方——敬愛スタイル』の小冊子がある。筆者の場合、これを基に、以前の2年ゼミ学生（2020年3月卒）が皆で選択問題を作り、それをmoodleに載せて、毎年小冊子をきちんと勉強したかどうかのチェックに使っている。

【2020年度の実践】

2020年度は、以下の2テーマが出題された。課題2は筆者の提案を受け入れていただいた。

2020年度 経済学科 小論文コンテスト

以下の2つの課題のうち、1つを選択して、A4用紙3～5枚で論述しなさい。課題の提出は、それぞれの2年ゼミの先生に1月31日までに送付すること。各ゼミの先生から推薦された小論文は、2月下旬から3月上旬に2次審査を行い、優秀作品を選考し、次年度の3年生ガイダンス（現2年生が対象）において表彰します。

【課題1】

次の記事（『読売新聞』2020年8月18日）と、そこに示されたグラフを読み取り、どのような経済政策が行われるべきか、あなたの考えを論述しなさい。

図3 小論文コンテスト課題1

【課題2】

以下のキーワード群の中からなるべく多くを小論文の中で用い、それらの間の関係を説明しながら、今、このパンデミック下にSDGsがなぜ必要なのかを論じなさい。その際、新聞記事検索を行い、極力、自分が主張することの証左になる事例を入れよ（『日本経済新聞』2020年6月11日の記事を1例として添付した）。

《キーワード》

SDGs、技術革新、Covid-19、パンデミック、Society5.0、ESG、価値観の変革、AI、IoT、5G、CASE、雇用、リモートワーク、脱炭素（CO₂削減）、ICT、DX、BBB、グリーン・ニューディール、グリーンボンド、グリーンリカバリー



図4 小論文コンテスト課題2

【飯野ゼミでのテーマ設定】

フィールドワーク入門とシナジー効果を期待し、極力、課題2のSDGsのテーマを選んでもらうよう、2年ゼミの学生に申し入れた。

moodleに次の段階を踏んで小論文を提出→代表選択を行った。

1. 10月初めの段階で「SDGsを知る予備作業」として添付のようなテンプレートに内容を埋めてもらった。
2. フィールドワーク入門のグループワークが終わってから、その内容を踏まえ、最終的な小論文を出してもらった（moodleの「課題提出」モジュール利用）。
3. 提出論文をmoodle上で共有し、「小論文チェック項目リスト」をpdfで提示し、それを参考としながら、Wordのコメント機能を使い、細かくコメントを入れてもらう課題を出した（moodleの「フォーラム」モジュール利用）。
4. 3を受けて修正した小論文にループリック評価を加えてもらった（moodleの「フィードバック」モジュールをループリック形式にして利用）。

課題 —SDGsについて— これを消して日付をご記入下さい

学籍番号: _____ 氏名: _____

㉔ SDGsとは何か (390~400字でまとめる) (赤字で字数を記入して下さい)
 あああ (★字)

㉕ EGSとは何か (390~400字でまとめる) (赤字で字数を記入して下さい)
 あああ (★字)

㉖ SDGs (EGS) を考察するためにどんな視点があるのか?
 (キーワードを10挙げ、それぞれの大意を90~200字で記入) (赤字で字数を記入して下さい)

1. キーワード: (大意) → あああ (★字)
2. キーワード: (大意) → あああ (★字)
3. キーワード: (大意) → あああ (★字)
4. キーワード: (大意) → あああ (★字)
5. キーワード: (大意) → あああ (★字)
6. キーワード: (大意) → あああ (★字)
7. キーワード: (大意) → あああ (★字)
8. キーワード: (大意) → あああ (★字)
9. キーワード: (大意) → あああ (★字)
10. キーワード: (大意) → あああ (★字)

㉗ なぜ今SDGsないしEGSがあつと言う間に世間の流れになったのか?
 (キーワードを10挙げ、それぞれの大意を90~200字で記入) (赤字で字数を記入して下さい)
 あああ (★字)

㉘ 企業にとってSDGsを推進することはどういうメリットとデメリットがあるか?
 (780~800字でまとめる) (赤字で字数を記入して下さい)
 あああ (★字)

㉙ 金融機関にとってSDGsを推進することはどういうメリットとデメリットがあるか?
 (780~800字でまとめる) (赤字で字数を記入して下さい)
 あああ (★字)

㉚ 家計にとってSDGsを推進することはどういうメリットとデメリットがあるか?
 (780~800字でまとめる) (赤字で字数を記入して下さい)
 あああ (★字)

㉛ SDGsを推進している/しようとしている例を、EU、アメリカ、日本についてまとめてください。
 (各390~400字ずつ) (赤字で字数を記入して下さい)

EU	あああ (★字)
アメリカ	あああ (★字)
日本	あああ (★字)

㉜ 自分が将来就こうとしている職業はどうSDGsに関係するか?
 (まだ決まっていない方は、あり得る職業を仮定して論じて下さい)
 (390~400字でまとめる) (赤字で字数を記入して下さい)
 あああ (★字)

㉝ 自分だったらSDGs共同研究の中でどの部分を担当するか? その理由は?
 あああ (★字)

図5 SDGsを知る予備作業テンプレート

3 2年次専門導入演習での進行 (運営課題)

ここでは、2年次専門導入演習で行った2つの経済学科のプロジェクト (フィールドワーク入門と小論文コンテスト) をSDGsを柱に運営した経緯とその結果の評価を説明する。2つのプロジェクトを分けて論じるべきであろうが、両者が一体となって進行したので、敢えてまとめて叙述する。

スタート地点において、2節の「2年次専門導入演習でのプラン」にほぼ従って進行してもらおうと試みた。毎回、moodle上に課題を出し、それをこなすことによって次の回のグループワークができるようになる反転学習の形にしたかった。その上で学生の創意工夫を重んじようとした。

【グループワーク】

しかし現実には課題が遂行されないため、また、web上のツールを使うと、マニュアル通り操作できないという問題が出たため、計画通りには進行しなかった。これらをどう進行させればよいのかは課題として残った。

SDGsグループワークは、スタート地点に設定した①図1、図2による整理がwebツールに多くがアクセスできなかったため、②「予備的作業」の課題がなされないため、SDGsの全体像が掴めぬまま、そして、最大の目標だった現経済状況とSDGsがなぜ今経済的に大きな意味を持ってきているかの関連付けがなされないままのスタートとなった。そのため、スタート地点でのSDGsの理解が「17の目標」があるということにしか及ばなかった。

その結果、解くべき疑問を同じとする学生でグループを作る、というグルーピングではなく、最初にたまたま組んだ同士の各グループが、「17のうちどれかを選んで調べる」に陥ってしまった。

筆者は、そこから、Covid-19下になぜSDGsの意味が大きくなってきているのかという疑問が出て、それを解き明かそうという欲求が出ることを期待した。学生の気づきによらないことを「教え込ん」でも、それは後日単に「聞いたことがある」に留まり、疑問に思ったことが解けた感激や深い納得は生じない。

しかし、結果は、17の目標のどれかを調べる、を選択したグループと、MDGsがSDGsになった経緯を調べるグループの発表に終わった。

この17のSDGsタイトルからくる視覚効果は、グループワークにおいて「この中からどれかを選ぶ」あるいは「この中のどれが1番重要か」という平板で意味の無いワークへの道筋に陥らせ易い。指導する者はそれに陥らぬよう、「現在の状況の中でSDGsが重視されるようになった背景」「SDGs各目標同士の有機的関係」「SDGsに絡む各経済主体の利害関係」等の視点を軸に見るよう、頻繁に助言し、引き戻さねばならない、という点を学んだ。

最終プレゼンに関しては、後述「基礎演習」で行ったようなプレゼンは省かれ、全グループ、メモを読み上げるもののみとなった。

【小論文コンテスト】

グループワークで調べたことを文章化したものが小論文コンテスト用課題として提出された。しかし、これでは図4の小論文コンテスト課題2の要求を満たさないため、ゼミ代表が相互投票で選ばれたものの、筆者の判断で辞退せざるを得なかった。グループワークとは関係なく、図3の課題1の方で書かれた小論文もあった。

「フィールドワーク入門」によって社会・経済のパラダイムシフトとSDGsの関連について掘り下げて疑問を出し、それをグループワークで解明していくという当初の狙いには達せず、今後の展開に課題を残した。

以上の経過に鑑み今後のゼミ指導の方針を考える場合、2つの選択肢がある。第1は、講師が予定の方法論通りに引っ張り、課題は必ずやらないと単位を出さないとするもの、第2は、学生の創意工夫を尊重し、工夫する力を伸ばしてもらうよう誘導するもの、である。

以下、それぞれにつき、短くコメントし、総合的に評価する。

3.1 2つの選択肢

3.1.1 講師が予定の方法論どおりに引っ張る

単位を鞭に、何が何でもやるべきことをやらせることから予想できる結果は、ネガティブなものが多いと考える。1) 学生が、自分自身がプロジェクトを進めているという感覚が持てない、2) 脱落者が大量に出て、単位取り直しになるか、退学予備軍ができる。メリットは、ついてこられた学生だけのグループを作り、そのグループの学生は狙いどおりの成果を上げることができることである。

3.1.2 学生の話し合いから出てくるものを尊重する

本来、当初の講師設定プログラムをソフトに提示、学生がその利便性・発展性を認識して、その進め方を採用、グループワークの中で自ら工夫し、洗練されたものにしつつ、仕上げるのが望ましかった。

そのため、筆者はこの路線をとった。しかし、その結果は目標通りにならず、課題が残った。

3.2 評価

2年次専門導入演習におけるSDGsプロジェクトの実施は、上記のように、プロジェクトの目的と照らし、課題が残った。

第1に、筆者がリーダーシップをもって学生を引っ張っていく姿勢をとらなかった（敢えて学生の発意に委ねた）こと、しかし第2に、学生側の1)「説明通りに動く」（特にweb上のツール操作）の欠如、2) 既存の視野で理解可能な範囲で整理しようとする傾向にあると考えられる。

これらを所与のものであるから仕方ないとするのではなく、繰り返しドリルのような形で、基礎能力を身につける努力を教員側で行うべきと考える。

グループの中には、これらの能力を持った学生がいる。しかし、彼らは全体の動向をキャッチし、他を尊重しつつ作業を進めようとする。

このことを前提にすると、webツールの利用、コミュニケーションを通じて考えを深める経験が可能な学生の機会を奪ってしまうことになる。

結論は、ゼミを2グループに分けることが合理的ではある。教員による一方的「選別」にならぬよう、希望を重視して、本来の目的通りに遂行するグループ、基礎能力を付け、卒業後には割り当てられた仕事を間違えずに遂行できるようにするグループの2つである。そして、前者については、講師が全体を引っ張りつつ、考えて欲しいところは、示唆を適時に繰り返し出しながら、気づきに至るよう伴走するのが最良の解決方法であろう。

4 講義・他学年のゼミでの実践

筆者の場合、以下の科目で実施した。

1. 「金融事情」
2. 「ヨーロッパ経済論」
3. 「国際地域論」
4. 「基礎演習」
5. 「専門演習」

4.1 講演 Video の要所を視聴し、小テスト

1、2、4節において、11月に行われた田瀬和夫氏「このパンデミックをめぐる今のビジネスによるSDGsへの取り組みと新型コロナ危機後の世界観」講演の録画から一部をテーマ性を持たせて抜き出したものを教材として利用した。Video利用に関する田瀬氏との合意に準拠してYouTubeに置かれたVideoの該当部分を学生に指示し、これを視聴してから、「企業にとってSDGsがなぜ取り組むべきものになっているのか」の説明をmoodle上の小テストの形で行った。

小テストは、田瀬氏の講演で挙げられていた3つのポイントを列挙し、説明を加えてもらう形式とした。この小テストをmoodle上で各科目利用した。

経済学部の学生が、SDGsとは何かの次に認識せねばならないこととして、「SDGsは企業の利益向上=株主への寄与と矛盾しないか」であろう。田瀬氏の講演では、生の経験を織り交ぜながら、非常に整理された形で、なぜ企業がSDGsに取り組む必要があるのかを説得的に説明していた。

4.2 予め資料を示し、1～3回のグループワーク

これについては、「金融事情」「ヨーロッパ経済論」で、それぞれ、日経SDGsフォーラムの基調講演 Video アーカイブ（よく整理されている）その他のSDGs、ESG投資関係の資料、先進的なヨーロッパの脱炭素・グリーンボンド・グリーンリカバリー戦略関係の資料（駐日欧州代表部が発信している“EU MAG”の関連記事等）にリンクを張り、予め勉強してもらった上で、オンライン授業の30分ほどを準備時間、残りをプレゼン時間として発表→相互評価した。

その際の目的は、

1. SDGsとは何か共通認識を確認する
2. 議論すると面白い問題設定を行う（ポイントが見つからないと言われた場合は講師から提起する）
3. グループで設定した問題を解決するディスカッションを行う
4. 全員が役割分担を決めプレゼンを実施

但し「ヨーロッパ経済論」は受講者数が少ないため、上記の方針に沿って柔軟に個人のプレゼンとし途中で講師との問答を入れた。

4.3 講演 Video のリアクション・ペーパー

専門演習、国際地域論で、田瀬氏の講演を、（研究所長の命に従い授業外の参加と限定した上で）視聴の案内を送った。

4.4 1年次基礎演習における共同作業とプレゼン

4.4.1 SDGs 図解共有共同作業

2年次専門導入演習で行った図解共有グループワークの作業を、1年ゼミの前期に行った。Jamboardでも、diagrams.net (draw.io) でも、後述の新聞記事の整理などの作業を行った。1年ゼミ前期においては、リアルタイムのZoomのゼミ出席は必須ではなかった。そのため、常時接続可能でITスキルもある学生が3人常時出席し、ゼミは大抵3人で行っていた。

双方の図解を共有し、中のパーツを相談しながら並べ替えたり新たに書き込みを行う、同時に、図解を自分だけのものとして保存し直し、自由に並べ替えを行いながら、小論文執筆のための整理を行う作業を楽々こなしていた。また、そのようなことがオンラインで

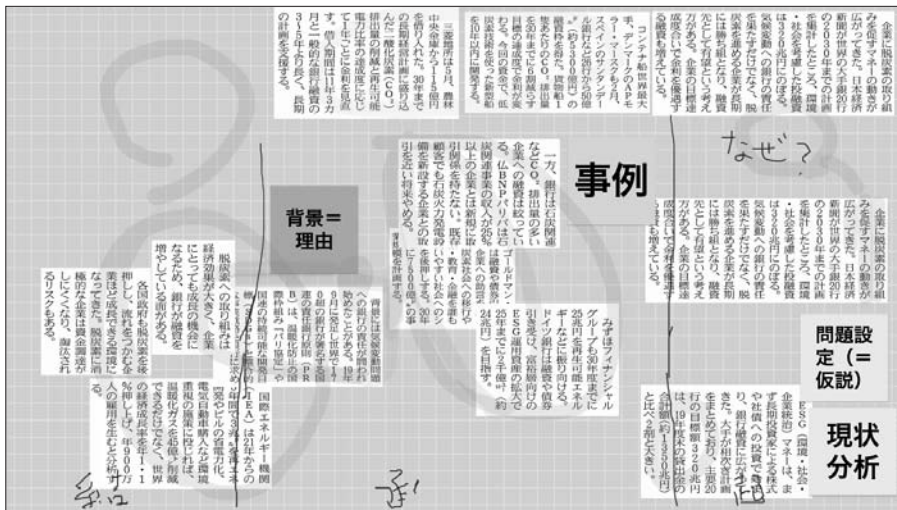


図6 1年ゼミでJamboardを使った新聞内容の整理→論文作成へ

できることを便利と感じ、面白く利用していた。

上記は、Jamboardを使ったものであり、学生達と筆者がZoomで話しながら共同で書き込みを行っている。

他に、diagrams.netを使って、別の記事で同様の作業も行っている。

新聞記事利用の著作権については、従来はリアルタイムのオンライン授業での共有はグレイであったが（対面授業で紙ベースで行うことは可能、オンラインでは授業時及びその前後1時間程度に限定で可能）、この時点でCovid-19対応の暫定的著作権緩和が発動していた。また、引き続き、「授業目的公衆送信補償金制度」により利用が可能になる予定である。

4.4.2 SDGsプレゼンVideoをYouTubeに置きurlをゼミ内共有

1年ゼミ後期では、ほとんどの学生がオンラインでゼミに参加していた。最後の「ゼミ卒業制作」として、SDGsをテーマとしたプレゼンを、PowerPointにアフレコを付け、動画形式でエクスポート→YouTubeに限定公開（urlを知っている場合だけアクセスできる）に上げてそのurlをmoodleのフォーラムに提出、それに相互評価を付ける、という作業を行った。やり方のポイントのみPC画面の写真をmoodleに上げ、リアルタイムのオンライン授業でも筆者がやってみせた。それを見て、moodle参加していたほとんど全員の学生が当作業は初めてだったようだが易々とこれをこなしていた。ここから判断するに、プラン通りの効果を上げることができるか否かは、「説明通りに動く」という非常に基本的なスキル、そして自分の作業を助けてくれるツールを目的を持って使う向上心や面白いと感じる好奇心があるか無いかに依存しているのではないかと考える。

恐らく彼らは、学業だけでなく、就職活動で要求されると言われている自己紹介Videoなども、このスキルの応用で作れるようになるであろう。

4.5 講義科目・1年ゼミでの実施の評価

講義科目では、まず、SDGsについての認識が従来あまり無かった。この機会に概要を知ることができたのは収穫だった（就職活動での面談等）。そして認識の成果をグループワークを経たプレゼンの形で巧みに表現することも経験できた。

5 OODA——来年度以降への示唆と大学全体／他機関への応用

5.1 来年度での修正

Observe（観察）Orient（状況判断）Decide（意思決定）Act（実行）のやり方で、改善し、来年度の修正を行う→うまく行ったら全体へフィードバック。

3節「2年次専門導入演習での進行（運営課題）」で〇〇を行ったとし、ここでの課題の洗い出しから、来年度の改善へ繋げる。

3節で述べたように、

1. 学生を、最初の時点では本来の目的に沿ったプログラムを行うグループ、反復ドリルを行うグループに分け、後者のグループに前者同様のスキルが付いたら、全体作業量を縮小するなどしつつ本来のプログラムの縮小版に復帰するよう計らう。差別のように見えるが、学生の将来のため、必要な措置と考えられる。
2. よりゲーム性を持たせる。具体的提案としては、「株式学習ゲーム」（東京証券取引所、日本証券業協会が無償提供）を利用し、SDGs銘柄の選別、選択理由の説明（小論文・プレゼン）、その運用成果を競う（ゲーム性）、結果の振り返り（小論文・プレゼン）、そしてそれらの相互評価、という流れを作る。

プレゼンについては、以下のような「金融事情」で使っている要綱を（金融の科目ではないので多少省く）利用し、全学部で募集して運用成績（これは寄付による小さな賞品や賞状）とプレゼンの評価で競う。授業単位、ゼミ単位、個人参加等あり得る。

3. 株式学習ゲームを核とし、①SDGsを実施している企業（ポートフォリオ組み入れ銘柄）にヒアリング、工場見学に行く（「敬愛プログラム」と連動）、②系列高校の高校生と合同で活動する、③社会人と合同で活動する、のように、活動範囲と活動メンバーを徐々に広げることを企図している。東証から半期に1度のレクチャーを受けることも、東証訪問も可能である。
4. 指導方法に問題があったとし、改善を試みる。
 - ・より多く示唆を出す、資料等をより多く提示する。
 - ・同じ成果を得るなら時間節約するのが生産性であるとして時間節約の工夫を勧めたのは誤解を生んだ。
 - ・安易に流れそうなタイミングで、その否定を入れヒントを出す。

以上、今年度実施したSDGs教育の取り組み（経済学部学生を前提）の実施プラン、進行、課題と、そこから浮かび上がった来年度以降への示唆、学園全体への対象拡大プランについての報告とする。

（注）

- 1) 政治的に無色であり業界依存性が少ないテーマであるため、ディスカッション、面接で話題にしやすい。また、各企業の活動にとって将来を左右する重要な概念であることから、それに関して定見を持っているか否かで、就活生の力量が判断される可能性が強い。
- 2) 本学が登録しているGoogleSuiteの1つに入っているオンラインサービス。網淵隆哉氏が、これを学園で使えるツールに加えて下さった。大学のGoogleID（各学生のGmailメールアドレス）で入れれば、GoogleDriveを介し共有し、地理的・時間的乖離があっても共同で図解を作成できる。